



御歌

年ごとに
月の在りどを
確かむる
歳旦祭に
君を送りて

清政

神道政治連盟京都府本部会報
平成19年11月15日発行(年2回発行)



諸事雑感

参議院選挙解説と今後の神政連の動き
ありむら議員メッセージ
平成19年度会員大会
事務局からの活動報告
せいせい書評

43

「諸事雑感」



神道政治連盟京都府本部

副本部長 花房 義久

このたび神道政治連盟京都府本部副本部長を仰せつかりましたが、何分とも年の割りに活動経験が少ないものですから、皆様方の足を引く張ることのないように、ご指導をいただきながら、頑張つてまいりたいと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。

いまでも無く神道政治連盟は、昭和四十四年に、世界に誇る日本の文化と伝統を後世に正しく伝えることを目的に結成された事は、すでに会員諸氏にはご存知の事とは存じます。日本らしさ、日本人らしさが忘れられつつある今、この国に誇りと自信を取り戻すために、さまざまな問題に取り組んでいます。

国の内外においていろいろな問題が山積している昨今、小泉首相の後を国民の圧倒的な支持を受け誕生した安倍首相、人気も高く安定政権かと思われましたが、社

会保険庁の問題や閣僚の不祥事などが続き、去る七月にはこう言った大きな問題を抱えながら参議院選挙に入りました。我々にとって、まさに神道政治連盟の力を試される重要な選挙であり、我々が推す唯一人の候補者、ありむら治子氏を再び国会に送るべく活動していた事が思い出されます。ありむら氏におかれては、皆様方のお力添えを得て無事当選されました。この上は神社界の思いを国政に届けてもらう声として更に頑張つて頂きたいと願っております。選挙結果は皆様方よくご存知のように、自民党の大敗でありました。衆議院と参議院において、ねじれ現象がおきている事は我々にとっても大きな不安材料でございます。神政連としての大きな問題である、「皇室の尊厳護持」「靖國神社の問題」「自主憲法の成立」「安全保障問題」「教育の正常化と正しい歴史観」「昭和の日の啓発」「国旗掲揚・国歌斉唱」などの問題や、京都府本部としての諸問題に立ち向かつて行く決意でございます。しかしながら、会員皆様方お一人お一人のご理解ご協力が無ければ何も出来ません。衆議院においても、いつ解散総選挙となるかも知れません。常に組織としての力を結集し、来るべき衆議院選挙において、再び神道政治連盟の力を存分に発揮できますよう皆様方のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

皇室の尊厳護持に関しても、いま仁徳天皇陵を世界遺産に登録しようとする運動が起っております。一見どうということの



神社庁内特設電話でのお願いコール

無い事柄のように思われますが、陵墓発掘を強要する一部学会の運動にも繋がっているようです。堺市では仁徳天皇陵・履中天皇陵・反正天皇陵などの「百舌鳥古墳群」を世界文化遺産に登録する事を目指して、文化庁に対して世界遺産の国

厳しい選挙結果

内暫定リストへの追加を提案する旨発表したとのことです。文化庁では、皇室の御祖先をお祀りもうしあげる陵墓を国の史跡にし、管理の手を及ぼしたいとの従来からの思惑が裏にはあるということをは是非ご理解いただき、安易な賛成は控え

七月二十九日に施行された第二十二回参議院議員通常選挙は、「年金記録漏れ問題」「政治とカネの問題」「閣僚の失言等の不祥事」などにより、自民党にとつては逆風が吹き荒れる中の大変な選挙であり、結果として世論が予測する通りの極めて厳しいものとなった。与党による過半数六十四議席を目標として戦ってきたものの、蓋を開けてみれば獲得議席数は三十八議席に止まった。各選挙区の複数区では各一議席を確保するものの、全国で二十九選挙区に及ぶ定数の所謂一人区では六勝二十三敗と惨敗、比例代表では民主党が二十議席を確保したのに対し、わずか十四議席を獲得のがやつとであった。「美しい国」や「戦後レジームからの脱却」といった訴えは、政治不信の高まりの中で「生活が第一」とした野党のキャンペー

て頂きたいものです。

十月に入り、あちらこちらで祭が執り行われておりますが、昨日と同じ事が今日も出来る、先月と同じ事が今月も出来る、昨年と同じ事が今年も出来る、そういった日々の感謝の集大成として祭があ

に屈し、文字通り惨敗と表現するほかない悲惨な結果となった。

自民党に逆風が吹き荒れる中、六年前の参議院選挙比例代表で十九位（二十人当選）、十二万四千票で当選された有村治子議員に再当選して頂くことは至難の業であったことはいまでもない。中央本部からは、今回の選挙での目標得票数は前回の倍、最低二十万票の獲得が必須であり、神政連としては唯一の推薦候補であることから、ひいては神界の沽券に関わる選挙であると言われていた。全国の各府県本部においても並々ならぬご努力をされてこられたと思うが、我が京都府本部においても独自の運動を展開、票数獲得に日夜奮闘、結果ギリギリの十四位（十四人当選）二〇、二九四票を獲得され当選されたのである。

京都府下における神社庁登録神社数は、一五七九社、神職数は五三八人、因

るのだと思います。こういう祭の場に、多くの子供達の楽しい歓声が聞こえて来て欲しいものです。地震や水害などの災害でお祭も満足に出来ない所もあろうかと思いますが、何よりも一日も早い復興を祈念しております。

みに神政連会員総数は二、三五〇名である。内、有村治子議員に投票された方は二、二八五人。残念ながら会員全員が神政連推薦議員に投票したことはない。しかしながら前回の選挙で有村議員の得票数は二、八五八票であるから、三七票、一割強増えた計算となる。選挙は神社庁が取り組む他の数々の事業とは違い、数日後には結果が詳細に出てくる。「二、二八五票」要するにこれが京都府本部の成績なのである。



四条河原町交差点での広報活動

今と
いうとき

第二十一回参議院選挙解説と 今後の神政連の動きについて

幹事長 梶 道嗣

京都の選挙対策

我々は早い段階で花房副本部長を頭
に選挙対策本部を設置、比例代表には
有村治子氏、京都選挙区には西田昌司
氏を推薦し選挙活動を展開すること
を決めた。まず府下本務神職に協力を
要請し署名運動を展開、集められた署
名数は四、三、三、三名分、全国平均は七千
名であるから署名収集率は悪かったと
言える。「しかしこれは結果ではない。
言い方を変えれば幾ら署名を集めても
得票に繋がらなければ意味がない。」と
自分自身に言い聞かせてはみたものの、
正直、署名収集率の低迷は対策本部を
不安にさせ、後の電話作戦に支障をき
たすこととなった。我々は選挙活動を、
大きく告示前・告示後に分けて行った。
告示を境に、して良い活動と禁止され
ている活動が公職選挙法には明確化さ
れており、選挙違反を避けることに我
々は最大の注意をはらってきた。七月二
十四日には炎天下の中、役員二十名が
四条河原町の街頭に立った。ピンクのジ
ヤンパーのいでたちで、道行く人に候補
者のチラシを配り投票を呼び掛けた。
七月十三日から投票日前日の二十八日
までの十六日間は、神社庁に臨時回線

の電話を敷き、集めた署名用紙を元に
電話作戦を展開、有権者に推薦候補者
への投票を訴え続けた。しかしながら、
集めた署名簿は作戦展開半ばで全て消
化してしまい、後半は役員自らが持ち
寄った名簿で電話作戦を行う努力も行
われていた。

結果、京都選挙区の西田昌司候補も
当選され、どうにかこうにか京都府本
部の面目は保たれることとなった。しか
しながら、これが京都の本当の実力では
ないと私は確信している。近い将来、衆
議院選挙も行われるであろう。参議院
で与党が過半数を大きく割り込んだ現
状では、衆議院選挙でも同じような現
象が起こる可能性は大きい。そうなる

と我々神社界にも大きな波が押し寄せ
てくることは必至である。我々が掲げる
「教育改革」「憲法改正」「靖國問題」
など大きな問題が全く違う方向に走
り出してしまいう危険性はおろか、例え
ば皆様に直結する問題として、宗教法
人を固定資産税の課税対象とする法
案などが通つてしまう可能性さえあり
得るわけである。仮にそのようなこと
になれば全国神社の何社が生き残れるの
だろうか。神主が政治に介入するのは
おかしいと思われる方も、直面する事
態がもうそこまでやってくることに
危機を抱いて頂き、我々神政連の活動
に倍旧のご理解とご協力を賜われます
よう切に願います。次第である。

参議員比例代表 有村治子氏 開票結果 (平成19年7月29日)

選挙区	旧市町	開票結果 (平成19年7月29日)		
		前回	今回	増減率
1区	北区	89	131	147%
	上京区	61	95	156%
	中京区	77	70	91%
	下京区	52	69	133%
2区	南区	53	66	125%
	左京区	102	205	201%
	奥山区	41	43	105%
	山科区	71	139	196%
3区	伏見区	189	222	117%
	向日区	29	40	138%
	長岡京市	69	64	93%
	大山崎町	19	12	63%
4区	右京区	124	128	103%
	西京区	117	128	109%
	亀岡市	60	57	95%
	南丹市	17	41	241%
5区	京丹波市	13	41	315%
	福知山市	55	83	151%
	舞鶴市	81	32	40%
	綾部市	30	45	150%
	宮津市	18	23	128%
	京丹後市	63	41	65%
6区	伊根町	1	0	0%
	与謝野町	16	38	238%
	宇治市	133	106	80%
	城陽市	74	43	58%
	八幡市	58	92	159%
	京田辺市	41	36	88%
	久御山町	8	12	150%
	井手町	6	18	300%
	宇治田原町	3	10	333%
	木津川市	42	27	64%
	笠置町	2	0	0%
	和束町	7	3	43%
精華町	27	18	67%	
南山城村	10	7	70%	
得票数		1858	2185	118%

参議院選挙を戦いぬいて

参議院議員 ありむら治子

去る七月二十九日に行われた、第二十二回参議院議員通常選挙は、予想以上の自民党への強い逆風の中、われわれ神道政治連盟京都府本部が推薦する、自民党比例代表(全国区)では、ありむら治子候補(中央本部・京都府本部推薦)が、そして京都選挙区より同じく自民党の西田昌司候補(京都府本部推薦)が見事当選を果たされた。今回は、前回選挙の約二倍もの票を獲得され二期目の活躍が期待されるありむら治子議員より、京都府の会員の皆さま宛メッセージが届いたのでご紹介したい。

鎮守の杜をお守りいただき第一線での活躍、本当にありがとうございます。

本年夏に施行されました参議院比例代表(全国区)選挙では、大変厳しい激戦の中、神社界の先生方・皆さまの力強いご支援を賜り、全国で二〇万三〇二人の方に「ありむら」とお書きいただいた二期目の当選を果たすことが出来ました。特に京都では、選挙に

向けての決起大会を開催して頂き、田中恆清庁長さま、荒巻禎一神社総代会長さま、林秀俊神道政治連盟京都府本部長さまはじめ、神職の先生方や総代、敬神婦人会等、神社関係者の皆さまに、早々からの後援会活動や電話掛け作戦など、前線でも大きなご支援を賜り、大きな勇気を与えていただきました。「神道の精神を国政に、日本のこころを政策に」と、

励まし続けて下さいました大きなご支援、本当にありがとうございます。心をこめて御礼申し上げます。

このたび国民の皆様への負託を得て、参議院議員として改めて議席をお預かりすることになりましたが、この六年間は、くしくも平成二十五年の第六十二回御選挙に向けて、全国的に奉賛の勢いをつけていく「上り坂の六年間」

とも丁度重なります。選挙中にも訴えました、「命の重み、家族の絆、日本の尊厳を守る」というのは、私が政治活動を進めて参ります上での根幹的なテーマです。「命の再生、命の継承と蘇り」の源流をなす御遷宮に向けても、心して学びや活動を重ねて参りたいと存じます。



戦後六十二年が経った今、将来に思いを馳せますと、物心ついて戦争を経験された方々が、今後十年・二十年の間に、八十、九十、百歳になられます。そしてその世代の多くは、晩年を迎えられます。故に、今後の十数年は、筆舌尽くしがたい戦争の体験や安心して生活が営める平和の尊さを、先輩方のほとばしるような言葉で直接語り教えて頂ける、いわば



「ラストチャンス」の時代となりま
す。このチャンスを今後にしっか
りと活かせるかどうかで、私達世
代の力量が問われると考えてお
ります。

人類が何百年もの間に経験し
た多くの激動を凝縮している昭
和から平成の八十年間、また明治
維新から百五十年の近現代史に
おける先人の叡智と教訓を、日
本の生存可能性を高めていくた
めに、しっかりと学びとり、伝え
抜く責任——歴史を伝えるその
役割が、私達自身の世代に移っ
てきていると強く認識しています。

今後も「挑戦する保守」を志
し、精一杯走って参ります。どうか
引き続き温かいご指導を賜りま
すよう心からお願ひ申し上げます。京
都府神社庁・京都府神社総代会・
神道政治連盟京都府本部の先生
方・皆々様の益々のご活躍と、稔
り多き秋を祈念申し上げます。
ます。

ありむら治子議員

プロフィール

- 生年月日: 昭和45年9月21日生まれ
- 出身地: 滋賀県(石川県生まれ。有村のルーツは鹿兒島にあります)
- 趣 味: ウォーキング、子どもと楽しむ絵本の読み聞かせ
- 家 族: 夫と3歳になる娘

主な神社関係役職

- 神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長
- 日本会議国会議員懇談会政策審議副会長
- 皇室の伝統を守る国会議員の会事務局次長

メッセージ

「しっかりとした国家観と、地
に足のついた生活観を持つて、課
題解決を図る」ことを心がけ、
全国対話を続けています。
「教育は国民性を創る礎」を信
念に、同志の皆さまとともに、
命の重み・家族の絆・国家の尊
厳を守ることを志しています。



ホームページにて国会活動をご報告しています。是非ご覧下さい! ▶ www.arimura.tv

会員大会

去る六月二十六日、今春に林本部長が再任、あわせて役員改選がなされてより初の神道政治連盟京都府本部会員大会（第二十二回）が、京都センチュリーホテルを会場に盛大に開催された。午前中には定例の代議員会が行われ、重要な府本部の案件が慎重に審議され、その後昼はさんでの会員大会実施となった。

三部構成の第二部式典は齋藤副幹事長司会のもと、竹内副本部長の開会の辞にて始まった。神宮遥拝・国旗儀礼・国歌斉唱・綱領唱和と続き、本部長より式辞が述べられた。次の功績者表彰では二名に表彰状を、永年当本部役員としてご尽力頂いた四名に感謝状がそれぞれ本部長より贈呈された（下記別欄に掲載）。次に来賓を代表して後にご講演を頂く宮崎義敬神道政治連盟会長を始め、三木善則京都府神社庁副庁長、先の安倍内閣より現在の福田内閣に引き続き総務大臣政務官にご就任になられ活躍中である二之湯智参議院議員よりそれぞれ祝辞をいただいたが、間近に参議院議員選挙を控えていることもあり、選挙に向け府本部一丸となった支持・協力を求め訴えられ、我々もその決意を一層強固にする次第であった。その後、梶幹事長より当本分会務報告がなされ、花房副本部長の開会の辞にて式典が終了した。

講演をいただいた。会長は神社本庁と神道政治連盟とは表裏一体で、本庁評議員会にて決議される事で、神道政治連盟が解決に動く案件は非常に多い、各都道府県においても同様のことと思う。どうか活動に協力いただきたいと冒頭に話をされ講演が始まった。

現在の日本は内憂外患であり、日本古来より受け継がれている伝統、文化を蘇らせる「維新」が必要不可欠である。こういう時こそ伝統を重んじる神社界が結束し団結しなければならぬ。その成果が来る参議院選挙たるべきである。この選挙では、当連盟が比例区で唯一推薦しているありむら治子候補には、全国で二十万票以上を獲得してもらわねば恐らく当選できない。六年前は小泉旋風もあって辛うじて当選できたが、今回は様々な問題で大逆風である。「日本を望ましい国にするには、志と使命感をもった国会議員を二人でも多く国政に送り出すことが必要不可欠と考える。」と述べ講演を閉じられた。

講演終了後、来る第二十二回参議院議員選挙京都選挙区において、父上である西田吉宏前参議院議員の意志を継ぎ出馬される西田昌司候補よりご挨拶いただき、自民党大逆風の中、事実上自民、民主、共産三党で二議席を争う厳しい選挙戦を迎えるにあたっての支援と協力を強く訴えられた。

第三部懇親会には小松副幹事長司会の下、多田副幹事長の開宴の辞にて開会し、京都府神社庁齋藤重介副庁長より乾杯の発声をいただき、盛大且つ和やかに飲

談いただいた。懇親会には西田昌司候補も同席され、参加者一人ひとりに握手をし支援を訴える姿が印象的であった。

表彰状

貴殿は永年に亘り当本部活動に貢献され組織発展に尽くされた功績は洵に顕著であります
仍つてその功績を称え茲に表彰いたします

平成十九年六月二十日
神道政治連盟京都府本部
本部長 林 秀俊

感謝状

貴殿は当本部活動に尽力され組織運営に貢献された功績は洵に顕著であります
仍つてその功績に対し深く感謝の意を表します

平成十九年六月十六日
神道政治連盟京都府本部
本部長 林 秀俊

閉宴に際し、安井副幹事長から当本部よりありむら治子議員の公示後の比例選挙のポスター掲示の依頼と、西田昌司候補への支援の協力をも重ねてお願いし閉会となった。

なお、西田昌司候補は京都選挙区にて二十九日中に、ありむら治子候補は目標の二十万票以上を獲得し三十日早朝に、それぞれ当選されたことは周知の事であるが、ご支援いただいた関係者の皆様と会員の皆様方に深くお礼を申し上げたい。
(事務局)

今回の被功績表彰者の方々は次の通り(敬称略)

- 表彰規定第五条第一項、当本部の活動方針に従って特に顕著な実績を示した者
- 洛北支部 賀茂御祖神社 権富司 宮 陽
- 洛北支部 洛北支部総代会 副会長 大野緑晴
- 表彰規定第八条、当本部の活動及び運営に特に多大の協力をした者
- 前副本部長 岩屋神社 室田 樹
- 前副幹事長 北野天満宮 権柳宜 松吉真幸
- 前副幹事長 城南宮 宮司 鳥羽重宏
- 前会計責任者 倭文神社 柳宣 後藤重和



あしあと

事務局からの活動報告(平成十九年六月〜平成十九年十一月)

6月 水無月

- 6月12日：●神政連中央本部本部長会 林本部長・中嶋事務局長出席 (於 神社本庁)
- 6月13日：●神政連中央本部中央委員会 林本部長・花房・吉田両副本部長・梶幹事長・中嶋事務局長出席 (於 神社本庁)
- ”：●神政連中央本部事務局会議 中嶋事務局長出席 (於 神社本庁)
- ”：●ありむら治子参議院議員支援決起大会 林本部長以下関係者4名出席 (於 虎ノ門パストラル)
- 6月16日：●京都府本部財務綱紀合同委員会 林本部長以下関係者出席 (於 京都府神社会館)
- ”：●京都府本部役員会 林本部長以下関係者出席 (於 京都府神社会館)
- 6月26日：●京都府本部代議員会開催 (於 京都センチュリーホテル)
- ”：●第21回会員大会開催 (於 京都センチュリーホテル)
- ”：●清政第42号発行

7月 文月

- 7月12日：●西田昌司参議院議員候補出陣式 梶幹事長 (於 西田昌司事務所)
- ”：●ありむら治子参議院議員候補出陣式 林本部長以下関係者50名出席 (於 大津バルコ前)
- 7月13日：●参議院選挙電話作戦実施 ～28日迄 林本部長以下延べ60名参加 (於 京都府神社会館)
- 7月14日：●ありむら治子候補選挙ポスター発送作業 林本部長以下10名出席 (於 京都府神社会館)
- 7月16日：●丹波五支部連合総会 林本部長出席 (於 八光館)
- 7月18日：●神政連中央本部臨時本部長会 林本部長 (於 神社本庁)
- 7月19日：●西田昌司候補支援団体合同会議 中嶋事務局長出席 (於 西田昌司事務所)
- 7月23日：●京都府神社庁関係団体代表者懇話会 林本部長他出席 (於 京都府神社会館)
- 7月24日：●ありむら治子候補選挙広報活動(チラシ配布) 林本部長以下21名出席 (於 四条河原町)
- 7月29日：●第21回参議院議員選挙投票日
- 7月30日：●西田昌司・ありむら治子両参議院議員当選祝電打電

8月 葉月

- 8月 6日：●日本会議・京都平成19年度総会 花房副本部長以下関係者出席 (於 烏丸京都ホテル)
- ”：●日本会議全国縦断キャラバン隊歓迎式典 花房副本部長以下関係者出席 (於 烏丸京都ホテル)
- 8月15日：●戦戦記念日の集い 三井事務局員出席 (於 靖国神社)
- 8月19日：●中部神社総代会総会 林本部長出席 (於 金刀比羅神社会館)
- 8月28日：●靖国神社霊壺簿からの氏名抹消等請求訴訟第5回口頭弁論傍聴券獲得活動 林本部長以下4名出席 (於 大阪地方裁判所及び大阪府神社庁)

9月 長月

- 9月 7日：●京都府本部監査委員会開催 (於 北野天満宮)
- ”：●京都府本部役員会及び懇親会開催 (於 北野天満宮及び豊しげ)
- 9月11日：●神政連中央本部役員会 林本部長出席 (於 神社本庁)
- ”：●京都市上支部総会 林本部長出席 (於 白峯神宮)
- 9月22日：●第36回交通霊祭 関係者参列 (於 西陣織会館)
- 9月24日：●平成19年度第1回定例代議員会開催 (於 京都府神社会館)
- 9月27日：●綴喜神社総代会総会 梶幹事長出席 (於 石川泉)
- ”：●財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会京都府本部決起大会 林本部長出席 (於 京都プライトンホテル)

10月 神無月

- 10月3日：●京都府神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭 林本部長参列 (於 京都府神社会館)
- ”：●第17回神宮大麻暦頒布増強推進懇談会 林本部長出席 (於 京都府神社庁)
- 10月6日：●日本会議設立10周年記念大会 中森事務局員出席 (於 東京ビッグサレ)
- 10月16日：●靖国神社霊壺簿からの氏名抹消等請求訴訟第6回口頭弁論傍聴券獲得活動 林本部長以下4名出席 (於 大阪地方裁判所及び大阪府神社庁)

11月 霜月

- 11月5日：●京都府戦没英霊追悼慰霊祭並びに時局講演会 (於 京都ガーデンパレス)
- 11月15日：●清政第43号発行

御歌を拜して。

年ごとに

月の在りどを確かむる

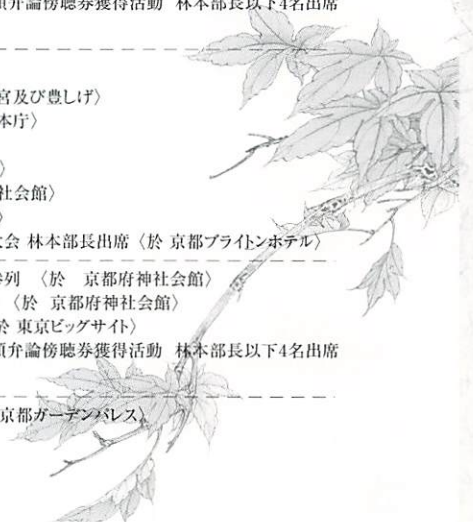
歳旦祭に君を送りて

皇后陛下が本年の歌会始でお読みになられた御歌です。

歳旦祭は、全国の神社において元旦の早朝執り行われる、その年の最初のお祭りです。宮中でも、天皇陛下御自らお務め遊ばされる「四方拝」に続いて、賢所(宮中三殿の中央に位置する御殿で、皇祖天照大御神一柱が奉斎されている)、皇靈殿(賢所の西隣に位置する御殿で、歴代天皇や皇族の御霊が奉斎されている)、神殿(賢所の東隣に位置する御殿で、天神地祇八百万神が奉斎されている)にて「歳旦祭」が斎行されます。

「四方拝」は元旦午前五時半より天皇陛下が黄檗染の御袍を召され神嘉殿の前庭に下り立たれ、伊勢の神宮及び四方の神々を御遥拝になる年中最初の御儀です。その後、陛下は賢所にお進みになり、皇祖・天神地祇をまつり、五穀豊穰・国民安寧を祈る「歳旦祭」に臨まれ太玉串をもつて拝礼、その後順次皇靈殿、神殿も拝礼遊ばされます。皇后陛下は参列遊ばされません。

この御歌には、まだ夜の明けきらぬ早朝、歳旦祭に向かわれる天皇陛下を毎年そととお見送りになされる、皇后様の愛情を秘めた思いに胸打たれる思いがたします。いにしえは旧暦で行われていたので、元旦は必ず新月であり月は見えぬはずでありましたが、「年」ごとに月の在りどを確かむる」の響きには、新暦で行うようになった現代の祭を少し憂うような、そんな響きをも感じます。(史)



編集室だより

家庭と読書

近年子どもの読書率が上がっているという。小学生で1ヶ月2冊弱、中学生で4冊弱の読書量である。学校で読書の時間を設けているのがその要因ではないかといわれているが、しかしそれでも依然先進国の中では、日本の子どもたちの読書率は低位だそうだ。大人の方はもっと深刻だ。一ヶ月全く本を読まない無読率は50才以上で60%を越える。つまり、子どもよりも大人の方が圧倒的に本を読まないのである。

ここに興味深いデータがある。昨年全国の中学生を対象に行われた調査では、保護者が頻繁に文学作品や小説を読む家庭の子どもは、全く本を読まない家庭の子どもに比べて学力の偏差値が4点以上高い傾向があるのだそうだ。また保護者が家でニュースをよく見るかどうか、同様の結果が示されている。「子どもは親の後ろ姿を見て育つ」とはよく言われる言葉だが、このデータは数字として如実にその言葉を表していると言っている。子どもの活字離れを懸念する声があるが、先ずは大人からその姿を示さなくては、全く説得力に欠ける。

今号から新たに書評のコーナーを設けさせて頂いた。書籍選びの一助となれば幸いである。

●ご意見ご感想をお待ちしています。投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールでお願いします。
宛先/神道政治連盟京都府本部「清政」編集室
ファックス/075-863-6664
電子メール/
info@kyoto-jinjacho.or.jp



このロゴマークは、わたくしたちの会名である「神道政治連盟」の英訳の頭文字SAS (Shinto Association of Spiritual Leadership) と日本古来の装飾品である勾玉(マガタマ)をデザイン化したものです。

清政 第43号

発行日 平成19年11月15日(木)
発行所 神道政治連盟京都府本部
〒616-0022 京都市西京区
嵐山朝市町68-8
電話 075-863-6677

神道連ホームページをぜひご覧ください。
<http://www.sinseiren.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション

「初心忘るべからず」「秘すれば花」。今も良く耳にする言葉です。これらの言葉は、いつ頃誰が表したものでしょう。これは、室町時代、西暦で申しますと一四〇〇年初頭に「世阿弥(ぜあみ)」が著した書物に出ている言葉です。それが「風姿花伝」、私のおすすめの本です。

この本は能楽師「世阿弥」が、父である観阿弥の教えと自分の考えを、後世の能楽師のために書いた能楽論です。が、内容は芸術・芸能全般は云うに及ばず、人が人として生きていく上での教訓になることがらが、微々細に入り具体的に懇切丁寧に書かれています。

一章一章独立した文章で、先ず年齢ごとに七歳、十二・三歳、十七・八歳、二十四・五歳、三十四・五歳、四十四・五歳、五十有余年と、各々の年頃に何をす

べきかを、第二は女、老女、直面、物狂を演ずるときの心得を、第三は問答の形を探り、上演時の立場、条件如何でどう演じるかとか、「序・破・急」は世の中の一切の事象について存在することや、上手、下手についてなどが濃やかに書かれています。

そのあと、奥儀の伝より「花」の事が頻繁に出てきます。先人からの芸の風姿を継承しつつ、心から心へと言葉を超越して伝授していく「花」が大切。題名の「風姿花伝」の所以です。

結局人に「花」が有る無いは何より大切だが、それは小さい時より日常の心がけ、努力、積古無くしては表れない。世阿弥が天才と云われながらも、苦勞と苦惱の末に到達した境地を、惜し気もなく書き表しているのです。

しかも、びっくりするのは現代に十分通用することがらを、社会のしくみや生活形態など、すべてに現代とは異なる六百年もの昔に、ビタッと見事に言い切っていることです。是非とも読んでいただきたい一冊だと思います。あなたの人生観が変わるかも・・・

推薦者 京都の藝を語る女性の会
提言者 今井貴美子
(大文字 女将)



風姿花伝 著者:世阿弥
岩波文庫(¥460)

せいせい書評

今読んでおきたいとおきの書籍



女性の品格 著者:板東眞理子
PHP新書(¥720)

藤原正彦氏の「国家の品格」について「女性の品格」なる書籍が昨年来ベストセラーを続けている。果たしてどうおきの一冊として推薦できるか、正直言って迷う一冊だ。そのワケは、著者がいわくつきの人物だからだ。著者は板東眞理子氏、現在の肩書きは昭和女子大学学長だが、元内閣府男女共同参画局長として「男女共同参画社会基本法」の仕掛け人にして、かの悪名高きジェンダーフリー旋風を巻き起こさせたフェミニストの代表たるお人。男女の性差の廃絶を声高に叫んできた彼女の思う「女性」の品格とは一体どんなモノなのか興味津々である。早速読んでみると、何のことはないごく常識的なマナーや立ち居振る舞いのHow-to本であった。中身を少々抜粋すると、品格のある女性とは礼状をこまめに書く/約束をきちんと守る/型どお

りの挨拶ができる/長い人間関係を大切にしない/乱暴な言葉を使わない/流行に飛びつかない/姿勢を正しく保つ/無料の物をもらわれない/家族の愚痴を言わない/プライバシーを詮索しない/よいことは隠れてするなどなど、女性に限らず日本人として、いや人間として身につけるべきでありながら、忘れ去られてしまっている常識が、わかりやすく解説されており、読んでいて気持ちのいい本なのだ。案の定端々に、男性を蔑むかのような表現が見受けられるものの、あの板東氏の著書と構えて読むと少々拍子抜けしてしまうほど、単純に納得できる良書だと感じた。読み手によっては、何か母親に説教されているような、抵抗感を持つ人もあるかもしれないが、電車の中で平気で化粧し、汚いヤンキー言葉をカッコイイと思、男の価値は金だけだといって憚らない現代日本の女性達には是非とも読んでもらいたい。また男性にも一度拾い読みでもしていただけたらと思う。

しかし「人間の品格」としても良さそうなおのの本を、あえて「女性の品格」とするところが、彼女のフェミニストたる所以なのであろう。

推薦者 石清水八幡宮
権瀬直 堀川宏史